

# 組織のリーダー10訓

「諸行無常・迅速」と常に心得る。

## (1) 時空の評価に耐え得る己の哲学を持つ。

時代を超え、世界で通用する普遍的な哲学、高い志(土の心)を持つ。

## (2) 判断は、原理・原則及び三方善を基準に。

原理・原則: 社会に厳然と存在する自然法則に従う。

三方善: 売り手よし、買い手よし、社会よし。

仕事とは、自分(自社)、相手(顧客)及び社会(地域)の三方が、より善くなる方法(仕組み)を考え出すこと。

## (3) リーダーは、仕組みのクリエイター(創造者)and デストロイヤー(破壊者)。

リーダーは、見識と胆識、並びに優しさと厳しきの両極端を併せ持つ。

リーダーは、決して「猿のマウンティング」の真似をしてはならない。

「して見せて 言ってみせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ。」(山本五十六)

マズローの欲求5段階説: 生理的要求(衣食住等)、安全要求(安定志向)、社会的要求(集団への帰属・親和)、自我要求(認知・尊敬)及び自己実現要求(あるべき自分、創造的活動)(アブラハム・マズロー)

## (4) 行動は、坦々と自然体(無為自然)で。

構想は優しく楽観的に、計画は厳しく悲観的に、行動は坦々と自然体で、指示は判り易く、具体的(6W2Hを明確)に出す。

## (5) 管理とは、 $G = P \cdot D \cdot C \cdot A$ を回すこと。

G(目的・目標)=P(可視計画)・D(継続実行)・C(傾向監視)

・A(挑戦的/感動的変革)を常に認識し、仕事を進める。

目的・目標を全員に明確に認識させ、周知しベクトルを合わせる。

## (6) 仕事(事・情報・物)を可視化する。

仕事(事・情報)の目的、全体像、仕組み(方法)、進捗及び結果を可視化(見える化)し、(物)は、6S化し、標準化した仕組みを日常習慣化する。

可視化と6S化は、問題発見(不正防止)、改善、状態維持及び予防の基本である。

6S化: 節制、躰、整理・清掃・整頓・清潔が維持された状態にすること。

## (7) 傾向監視と迅速な手当て。

リーダーは、全体(像)、過去~現在を俯瞰(鳥の目で観て)し、進行中の傾向を監視、適時アクションを取る。(巧選よりも拙速を尊ぶ行動)

## (8) 事象の分析は、3直・3現から。

事象(事柄、物品、現象)は、3直・3現(現場、現物、現実)で確認し、特性要因図(魚の骨図)及びQC7つ道具等で詳細に観る。時には「5Why運動」「プロセス分析」等もやってみる。

プロセス分析: 仕事・作業のインプット、アウトプット、制約条件、可使資源の変化・変更を再確認。

## (9) リスクヘッジは、変更管理にあり。

仕事・作業の6W2H及び5Mの変更を重点管理する。

特に人、物(材料・設備)、方法の変更時が管理のポイントである。(問題の8割は変更時に発生する。)

## (10) 成功法則: 「ネバーギブアップ(継続は力なり)」を宗とする。

